

論文審査の要旨

報告番号	甲 第 3130 号	氏 名	野村 康介
論文審査担当者	主査 扇谷 芳光 教授		
	副査 水谷 徹 教授		
	副査 砂川 正隆 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>ステント内再狭窄に対する治療として Drug-Coated Balloon(DCB)治療が出現したが、実臨床では DCB 治療後のステント内再狭窄をしばしば経験する。原病変の冠動脈の石灰化が、ステント内再狭窄に対する DCB 治療後の経過にどのように影響するかは、未だ明らかではない。そのため、冠動脈の石灰化が DCB 治療後の臨床経過に及ぼす影響について検討した。ステント内狭窄に対し DCB 治療を施行した患者 100 人(166 病変)を対象とし、ステント治療前の原病変の冠動脈の石灰化、ステント治療・DCB 治療前後の定量的血管造影(QCA)を解析し、DCB 治療後の標的病変再血行再建率(TLR)・主要心血管イベント(MACE)の予測因子になりうるかを調査した。DCB 治療後の MACE・TLR に関して、多変量解析で原病変の冠動脈の石灰化 (p=0.004) と DCB 治療前の狭窄率(%DS)>73%(p=0.026)・最小血管径(MLD) <0.65 mm (p<0.001)が独立した予測因子であった。さらに原病変の冠動脈の石灰化と DCB 治療前の狭窄度の組み合わせは、DCB 治療後の MACE・TLR の予後予測に関して有意に層別化した (p<0.05)。原病変の冠動脈の石灰化は DCB 治療前の解剖学的評価と同様に、DCB 治療後の予後予測因子として有用である事が示された。以上より、本論文が新しい知見を得ており、学術上価値のあるものと考えられ、学位論文に値するものと判断した。</p>			
<p>論文題名: Impact of Native Coronary Artery Calcification on the Lesion Outcome Following Drug-Coated Balloon Angioplasty for Treatment of In-Stent Restenosis</p> <p>(ステント内狭窄に対する Drug-Coated Balloon 治療効果に、原病変の冠動脈石灰化が与える影響の検討)</p>			
<p>掲載雑誌名 THE SHOWA UNIVERSITY JORNAL of MEDICAL SCIENCES</p>			

(主査が記載、500 字以内)